

・サーバーの機能

サーバーの機能	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
Windows OS でのインストール	○	○	○	○	○	○ ※1
Linux OS でのインストール	○	○	○	○	○	○
クラウド環境でのインストール	○	○	○	○	○	○
オンプレミス環境でのインストール	○	○	○	○	○	○
オフライン環境でのインストール	○	○	○	○	○	○
スクリプトと自動ワークフロー	○	○	○	○	○	○
分析モデルとモデル チェーンの作成	○	○	○	○	○	○
Web 上でのデータ編集	○	○	○	○	○	○
OGC Web サービスのサポート	○	○	○	×	×	×
住所情報から位置情報への変換 (ジオコーディング)	○	○	×	×	○	○
データをスキーマティック ダイアグラムとして表示	○	○	×	×	×	×
オフライン環境下での編集	○	○	×	×	×	×
ジオプロセシング ツールと Web ツールの公開	○	○	×	×	×	×
ArcGIS 3D Analyst ツールの公開※2	○	×	×	×	×	×
ArcGIS Geostatistical Analyst tools の公開※2	○	×	×	×	×	×
ArcGIS Spatial Analyst ツールの公開※2	○	×	×	×	×	×
画像とラスターの動的なモザイク処理	×	×	○	×	×	×
動的ラスター処理と解析	×	×	○	×	×	×
ビッグデータの処理と分析	×	×	○	○	○	○
ストリーミングデータのリアルタイム解析	×	×	×	○	×	×
位置情報を活用した通知	×	×	×	○	×	×
ジオフェンスの作成および監視	×	×	×	○	×	×
データサイエンス Python ライブラリの使用	×	×	×	×	×	○
スクリプトのビルドイン スケジューリング	×	×	×	×	×	○

○：利用可能
×：使用できない

※1：Notebook ServerはLinux上で使用することを推奨します。詳細はドキュメントを確認してください。

※2：対応する ArcGIS Desktop または ArcGIS Pro エクステンションがある場合のみ有効です。

・サービスの種類/ホストレイヤーの種類/コンテンツ

サービスの種類	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
キャッシュサービス - マップ、イメージ	○	○	○	×	×	×
ダイナミック マップ サービス	○	○	×	×	×	×
フィーチャ サービス	○	○	×	×	×	×
ジオコーディング サービス	○	○	×	×	×	×
ジオデータ サービス	○	○	×	×	×	×
ジオメトリ サービス	○	○	×	×	×	×
ジオプロセシング サービス	○	○	○	×	○※3	×
イメージ サービス - モザイク データセット	×	×	○	×	×	×
イメージ サービス - 単一ラスタ	○	○	○	×	×	×
ネットワーク サービス	○	○※4	×	×	×	×
パーセル ファブリック サービス	○	○	×	×	×	×
印刷サービス	○	○	×	×	×	×
すぐに使える Python Notebook	×	×	×	×	×	○
スキマティック サービス	○	○	×	×	×	×
ストリーム サービス	×	×	×	○	×	×
ユーティリティ ネットワーク サービス	○	○	×	×	×	×

ホスト レイヤーの種類	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
フィーチャ レイヤー	○	○	×	×	×	×
マップ イメージ レイヤー	○	○	×	×	×	×
イメージ レイヤー	×	×	○	×	×	×
シーン レイヤー	○	○	×	×	×	×
ラスタ タイル レイヤー	○	○	×	×	×	×
ベクター タイル レイヤー	○	○	×	×	×	×

コンテンツ	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
ArcGIS Living Atlas of the World	○	○	×	×	×	×
ArcGIS StreetMap Premium (表示、ルート検索、ジオコーディング)	●	●	×	×	×	×

○：利用可能
●：追加可能
×：使用できない

※3：サーバーで構成済みのジオプロセシング サービスのみ利用可能です。
ジオプロセシング サービスの追加や修正はできません。

※4：ArcGIS Network Analyst エクステンションが必要です。

・エクステンション/入力データの種類

エクステンション	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
ArcGIS Network Analyst	○	●	×	×	×	×
ArcGIS for INSPIRE	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Data Interoperability ※5	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Data Reviewer ※5	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Workflow Manager ※5	●	●	×	×	×	×
ArcGIS for Maritime ※5	●	●	×	×	×	×
Esri Defense Mapping ※5	●	×	×	×	×	×
Esri Production Mapping ※5	●	●	×	×	×	×
Esri Roads and Highways ※5	●	●	×	×	×	×

入力データの種類	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
3D フィーチャ (ポイント、ライン、ポリゴン)	○	○	×	×	×	○
3D シーン	○	○	×	×	×	○
住所ロケータ	○	○	×	×	×	×
ビッグデータ - フィーチャ	×	×	×	○	○	○
ビッグデータ - 画像/ラスター	×	×	○	×	×	○
フィーチャ データ (ポイント、ライン、ポリゴン)	○	○	○	○	○	○
画像/ラスター データ - モザイク データセット	×	×	○	×	×	○
画像/ラスター データ - 単一ラスター	○	○	○	×	×	○
3D メッシュ	○	○	×	×	×	×
LIDAR/テレイン データ - モザイク データセット	×	×	○	×	×	×
LIDAR/テレイン データ - 単一ラスター	○	○	○	×	×	×
マルチパッチ データ	○	○	×	×	×	×
パーセル ファブリック	○	○	×	×	×	○
点群	○	○	×	×	×	×
ラスター標高サーフェス	×	×	○	×	×	○
リアルタイム データ ストリーム	×	×	×	○	×	○
表形式データ	○	○	×	○※6	○	○
ユーティリティ ネットワーク	○	○	×	×	×	○

○：利用可能
●：追加可能
×：使用できない

※5：Windows OS のみ利用可能

※6：GeoEvent Server は、表形式などのシステム ファイルからデータを取り込むことができます。システム ファイルのデータは、テキストで読み取り可能で、かつ区切りテキスト、JSON（一般的な JSON 形式）、または XML 形式である必要があります。GeoEvent Server は、フィーチャ レコードのフィーチャ サービスをポーリングし、これらのデータをイベント レコードとして処理することが出来ます。GeoEvent Server はフィーチャ サービスを介して従来のリレーショナル データベース（RDBMS）と連携します。データベースのテーブルに直接接続して操作することはサポートされていません。

・ユーザータイプ別に指定できるロール / ポータルの機能

ユーザーロールと互換性のあるユーザータイプ	ユーザーロール				
	管理者	公開者	ユーザー	データ編集者	閲覧者
GIS Professional	○	○	○	○	○
Creator	○	○	○	○	○
Field Worker	×	×	×	○	○
Editor	×	×	×	○	○
Viewer	×	×	×	×	○

ポータルの機能	ユーザーロール				
	管理者	公開者	ユーザー	データ編集者	閲覧者
データ、マップレイヤー、Web マップ、アプリケーションの参照	○	○	○	○	○
マップ上でのデータの可視化	○	○	○	○	○
データの三次元表示	○	○	○	○	○
データの動的な検索とフィルタリング	○	○	○	○	○
場所の検索 (ジオサーチ)	○	○	○	○	○
ターngoとのルート案内の生成	○	○	○	○	○
データの表示スタイル (シンボル) 変更	○	○	○	○	○
距離の計測	○	○	○	○	○
アイテムの追加	○	○	○	×	×
既存アイテムからのレイヤーの公開	○	○	×	×	×
住所情報から経緯度情報の変換 (ジオコーディング)	○	○	○	×	×
マップレイヤー、Web マップの保存	○	○	○	×	×
データ、マップレイヤー、Web マップの共有	○	○	○	×	×
Web マップから Web アプリケーションの作成	○	○	○	×	×
データの編集	○	○	○	○	×
新しいアイテムとして保存	○	○	○	×	×
データの解析	○	○	○	×	×
コンテンツのグループ内共有	○	○	○	×	×
データ、マップレイヤー、Web マップ、アプリケーションへのセキュリティ設定	○	○	○	×	×
ダイナミックなデータビューからのレイヤーの作成	○	○	×	×	×
ArcGIS Enterprise Sites を使用して、独自のランディングページを作成	○	○	○	×	×
ポータル間での信頼された共有の確立	○	×	×	×	×
アプリケーションライセンスの管理	○	×	×	×	×
GIS ユーザーメンバーシップの追加と管理	○	×	×	×	×
メンバーアカウントの無効化	○	×	×	×	×
メンバーの削除	○	×	×	×	×

○：利用可能
×：使用できない

・ サポートされるデータベース & データ接続

エンタープライズ ジオデータベースおよびクエリ レイヤーでサポートされるデータベースの種類

Amazon Aurora PostgreSQL
 Amazon RDS for Microsoft SQL Server ※7
 Amazon RDS for PostgreSQL ※7
 IBM DB2 ※8
 IBM Informix
 Microsoft SQL Server
 Microsoft Azure SQL Database ※7
 Microsoft Azure Database for PostgreSQL
 Oracle
 PostgreSQL
 SAP HANA ※9

クエリ レイヤーでサポートされるデータベースの種類

Dameng
 SQLite
 Teradata

ラスター解析を実行する際にArcGIS Image Server でサポートされるラスター ストア

Alibaba Cloud OSS
 AWS S3
 ローカル ファイル共有
 Microsoft Azure Storage

ArcGIS GeoAnalytics Server でサポートされる入力データ

ホスト フィーチャ サービス
 フィーチャ サービス
 ストリーム サービス
 ビッグデータ ファイル共有

- Apache Hadoop HDFS ※10
- Apache Hive
- AWS S3 ※10, ※11
- Azure Data Lake Store ※10, ※11
- ローカルおよびネットワーク
ファイル共有 ※10, ※11
- Microsoft Azure Storage ※10

ArcGIS GeoEvent Server でサポートされる入力データ ※12

ホスト フィーチャ サービス
 フィーチャ サービス
 ストリーム サービス
 ローカルおよびネットワーク ファイル共有
 Kafka
 ネットワーク プロトコル

- HTTP
- TCP
- UDP
- RSS
- WebSocket

※7: クラウド上にホストされているデータベースを使用するには、ArcGIS Enterprise を同じクラウド環境内のデータベースと構成する必要があります。

※8: IBM Informix および z/OS の IBM Db2 は、ArcGIS Desktop 10.x で公開する場合のみサポートされます。

※9: ArcGIS Enterprise (バージョン 10.6 以上) と ArcGIS Pro (バージョン 2.1 以上) 間の公開ワークフローと互換性があります。SAP HANA エンタープライズ ジオデータベースは、古いバージョンの ArcGIS Enterprise または ArcGIS Desktop (ArcMap または ArcGIS Pro) で使用することはできません。

※10: GeoAnalytics Server は解析結果をこれらのデータソースに書き込むこともサポートしています。

※11: シェープファイル、Parquet、ORC、区切りファイルがサポートされています。

※12: リストに記載されている入力データソースは、ソフトウェアに付属している入力コネクタがサポートするデータソースです。また、GeoEvent Server はこれらのデータソースに書き込むこともサポートしています。ArcGIS GeoEvent Gallery または ArcGIS GeoEvent Partner Gallery から入力コネクタをソフトウェアに追加することで、リストに記載されているデータソースに加えて、他のデータソースも入力データとして使用することが出来ます。

クラウド環境のサポート

システム要件を満たすインフラストラクチャを使用し、任意のクラウドプラットフォームに ArcGIS Enterprise を導入することができます。Amazon Web Services (AWS) および Microsoft Azure の場合、ArcGIS Enterprise には事前構築されたイメージとデプロイメント ツールが付属しているため、デプロイメントのインストールと構成をさらに容易に行うことができます。

さまざまなクラウドプラットフォームでの展開に加えて、ArcGIS Enterprise はいくつかのクラウドプラットフォームでは、クラウドネイティブストレージやクラウドマネージドデータベースなどのサポートが含まれています。さまざまなクラウドストアでサポートされている機能の概要は本ドキュメントを、詳細についてはヘルプドキュメントを参照してください。

クラウドネイティブストレージ

- AWS S3
- Microsoft Azure Storage
- Alibaba Cloud OSS

OGC および Open Web サービスのサポート

Esri の Open Vision に従い、ArcGIS Enterprise の ArcGIS GIS Server (Advanced および Standard) は、以下の Open Geospatial Consortium (OGC) および Open Web サービスをサポートします。

- WMS : Web Map Service
(versions 1.0, 1.1, 1.1.1, and 1.3)
- WFS : Web Feature Service
(versions 1.0, 1.1, and 2.0)
- WCS : Web Coverage Service
(versions 1.0.0, 1.1.0, 1.1.1, 1.1.2, and 2.0.1)
- WMTS : Web Map Tile Service
(version 1.0)
- WPS : Web Processing Service
(version 1.0)
- KML : Keyhole Markup Language
(version 2.2)
- GeoJSON

Image Server のライセンスで認証された ArcGIS Server は ArcGIS GIS Server に記載された同様のバージョンの Web Coverage Services を公開できます。

セキュリティ、認可、および認証

ArcGIS Enterprise は、アクセス管理やセキュアなリソースの権限設定など強固で効果的なセキュリティフレームワークを提供します。セキュリティの構成は以下の機能を提供します。

- Web 層認証 (IWA, PKI)
- GIS 層認証 (ビルトイン)
- エンタープライズログイン (SAML 2.0)
- エンタープライズグループ (Active Directory, LDAP, SAML 2.0)
- TLS 1.2 および後方互換性としての TLS 1.1 および TLS 1.0 のオプション サポート

・ ArcGIS Enterprise の構築

配置特性	自動化ツール				
	Chef	PowerShell DSC	AWS	Azure	ArcGIS Enterprise Builder
クラウド環境	○	○	○	○	×
オンプレミス環境	○	○	×	×	○
Windows OS	○	○	○	○	○
Linux OS	○	×	○	×	○
単一マシン構成	○	○	○	○	○
複数マシン構成	○	○	○	○	×
高可用性構成	○	○	○	○	×
ArcGIS Enterprise 基本配置のセットアップ	○	○	○	○	○
ArcGIS Server のセットアップ	○	○	○	○	×
Image Server のセットアップ	○	○	○	○	×
GeoEvent Server のセットアップ	○	○	○	○	×
GeoAnalytics Server のセットアップ	○	○	○	○	×
Notebook Server のセットアップ※12	○	○	○	○	×
構成のアップグレード ※13	○	○	○	○	○
構成に関する設定テンプレート	○	○	○	×	×
構成に関するマシン イメージ	×	×	○	○	×
コマンドライン インターフェイス	○	○	○	○	○
ウィザード インターフェイス	×	×	○	○	○

○：利用可能
 ×：使用できない

※12：Ubuntuのみ利用可能

※13：このツールを使用してセット アップされた構成のみ、アップグレードすることができます。

・ユーザー タイプ ライセンス

指定ユーザー ライセンス

ArcGIS Enterprise は、ID ベースのセキュリティ モデルを使用しています。ArcGIS Enterprise 内のセキュアなコンテンツにアクセスするためには、個人が ArcGIS Enterprise 構成のメンバーであり、システム内に ID を持っている必要があります。ArcGIS 全体で ID はライセンス認証され、ユーザー タイプ ライセンスを通して割り当てられます。

ユーザー タイプには、5 種類の汎用ユーザー タイプ (Viewer、Editor、Field Worker、Creator、GIS Professional) があります。

Viewer は、ArcGIS Enterprise 内のアイテムへアクセスしたり、表示したり、対話的な操作を行うことができますが、新しいコンテンツを編集、共有、作成することはできません。ArcGIS Enterprise Standard および Advanced においては、追加費用なしで Viewer ユーザー タイプを追加することが可能です。Creator ユーザー タイプでは、幅広い権限がユーザーに割り当てられます。Creator ユーザー タイプを持つユーザーは、ArcGIS Enterprise ポータル内でデータやコンテンツを作成、所有、分析、共有および格納することができます。

Editor、Field Worker、GIS Professional ユーザー タイプは、ユーザーが使用できる機能とアプリケーションの権限が含まれています。例えば、Field Worker ユーザータイプでは、Survey 123 for ArcGIS、Workforce for ArcGIS、Collector for ArcGIS といったフィールド アプリケーションを使用することで、既存のデータセットを編集することが可能です。Editor ユーザー タイプでは、既存のデータおよび新たに追加されたデータを編集することが可能です。GIS Professional ユーザー タイプでは、Creator ユーザー タイプがもつ機能に加えて、ArcGIS Pro を利用することができます。

ArcGIS Enterprise 10.8 ではユーティリティー ネットワークとパーセル ファブリックの 2 つのユーザー タイプ エクステンションが新しく追加されました。ユーザータイプエクステンションは GIS Professional Standard および Advanced に含まれており、基本的な機能を提供します。また、アドオン ライセンスとして他のユーザータイプに含めることも可能です。

初期購入時に付属するユーザー タイプ

ArcGIS Enterprise エディション/レベル	ユーザー タイプ	
	Creator	Viewer
ArcGIS Enterprise Standard	5	お問い合わせください
ArcGIS Enterprise Advanced	50	お問い合わせください
ArcGIS Enterprise Workgroup Standard ※14	5	0
ArcGIS Enterprise Workgroup Advanced ※14	10	0

※14：ArcGIS Enterprise Workgroup レベルでは、エディションに関わらず一つの構成当たり最大 10 ユーザーまでサポートされます。ArcGIS Enterprise Workgroup Standard には、Creator ユーザー タイプが 5 ユーザー含まれています。組織の全ユーザー数が 10 を超えない限り、指定ユーザータイプ (Viewer、Creator、またはその組み合わせ) を 5 ユーザー追加できます。ArcGIS Enterprise Workgroup Advanced には既に Creator ユーザー タイプが 10 ユーザー含まれているため、(任意のレベルの) 指定ユーザー タイプを追加することはできません。

注意：本ドキュメントに記載されている情報は、Enterprise Agreement (EA) や教育サイト ライセンスなどの特別なプログラムには適用されません。付属する指定ユーザー エンタイトルメントの詳細な情報は、ESRI ジャパンまでお問い合わせください。

補足：Viewer ユーザー タイプは、以前のリリースのレベル 1 指定ユーザーと同等の機能を有し、Creator ユーザー タイプはレベル 2 指定ユーザーと同等の機能を有しています。

・ ArcGIS Enterprise の基本ライセンス

ArcGIS Enterprise のエディションとレベル

ArcGIS Enterprise は 2 種類の利用機能 (エディション) と 2 種類の利用規模 (レベル) に応じたライセンスを提供しています。エディションは Standard と Advanced で、レベルは ArcGIS Enterprise と ArcGIS Enterprise Workgroup があります。特に区別する必要がなければどのようなエディション、レベルでも、まとめて ArcGIS Enterprise と呼んでいます。

ArcGIS Enterprise Workgroup レベル

ArcGIS Enterprise Workgroup は、ArcGIS Enterprise と同じ機能を提供しますが、少人数のチームや小規模な組織向けのライセンスです。Workgroup レベルは、ArcGIS Enterprise のライセンスと以下の点が異なります。

- ・ ワークグループ ジオデータベースは、Microsoft SQL Server Express のみサポートし、データベースの最大容量は 10 GB に制限されます。また、ワークグループ ジオデータベースの Desktop クライアントからの同時接続が 10 までに制限されます。
- ・ Workgroup レベルは、ファイルベースのデータソース (ファイル ジオデータベースなど) とワークグループ ジオデータベースのみの利用に制限されます。エンタープライズ ジオデータベースの利用は許可されていません。
- ・ ArcGIS Enterprise の基本ライセンスでの基本配置は、すべてのコンポーネントを 4 コアまでの単一のマシンにインストールする必要があります。
- ・ 各サーバー ロールは 4 コアが最大です。追加のロールは、基本配置とは別のマシンに配置することができます。ArcGIS Data Store のビッグ データ ストアは、別個の 4 コア マシンで構成できます。

詳細について、ArcGIS Enterprise のどのエディション、レベルが適しているのかなどのお問い合わせはこちら (<https://www.esri.com/form/inquiry/>) まで。

他のサーバー ライセンス

ArcGIS GIS Server Basic は、主にエンタープライズ ジオデータベース機能を提供する機能制限のある GIS サーバーです。ArcGIS GIS Server Basic は、ArcGIS Enterprise 機能の一部として統合することはできません。また Web GIS 機能へのアクセスも有効化できません。※ 15

※15 : ArcGIS Enterprise 10.8 以前の機能比較表に記載されている ArcGIS GIS Server Basic の機能と同様です。詳細については以下のドキュメントをご参照ください。

以前のバージョンの機能比較表

- ・ [ArcGIS Enterprise 10.8 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.7.1 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.7 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.6.1 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.6 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.5&10.5.1 機能比較表](#)

ArcGIS Enterprise 10.8.1 機能比較表

2020年10月20日

ESRIジャパン株式会社

<https://www.esrij.com/>

Copyright(C) Esri Japan. 無断転載を禁ず

本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

本書に記載されている内容は改良のため、予告なく変更される場合があります。

本書の内容は参考情報の提供を目的としており、本書に含まれる情報はその使用先の自己の責任において利用して頂く必要があります。